

道民カレッジ主催講座令和3年度  
地域活動実践講座

## 恐竜をとおして産学官連携の地域おこし ～恐竜城下町を目指して～

### 資 料



むかわ地域商社  
合同会社エムディノ  
専務取締役 田所 隆 氏

むかわ地域商社  
合同会社エムディノ  
代表取締役 遠藤 研二 氏

パッケージ講座（こちらをあわせてご覧下さい）

北海道で見つかった新属新種の恐竜～カムイサウルスジャポニクス～  
北海道大学総合博物館副館長 教授 小林 快次 氏

パッケージ講座（こちらをあわせてご覧下さい）

恐竜研究を支えるアマチュア発掘家とまちづくり  
～カムイサウルス・ジャポニクス大発見の舞台裏～  
アマチュア発掘家 堀田 良幸 氏・むかわ町穂別博物館長 櫻井 和彦 氏

道民カレッジ

## 起業のきっかけ

むかわ町は震災のすぐ後で非常に復興を目指している。それからむかわ町の経済の復興も兼ねて「恐竜をベースとしたまちづくりというものをやるんだ。地域商社というものを是非作るんだ」と町長の熱い想いを聞きまして面白いかもしれないなと思ってこちらに来たわけですね。

必要性は皆さん訴えてやるべきだと。誰がやるって言った時に結果的に誰もやらない。もうこれは早くやらないとですねせっかくむかわ竜のブームもあったし早くやんなきゃダメですよ田所さんって言ううちに、じゃあしょうがないから 2 人でやるかと作った会社なんです。

小林先生が「恐竜には 4 つの価値がある」と。そのうちの 1 つが「経済的価値というものがあるはずだ」と。経済価値というものをこのむかわ町でトライしてみませんか。という話を町長は私も真剣に考えてですね、その産業を起こせる核となる可能性もあるし経済の好循環・地域経済の好循環を生む起爆剤になって頂ければということで商社の存在を必要性を考えてですね、早々に設立をとという流れになったんですね。

むかわ竜というかですね恐竜の化石を生かしたまちづくりというのは一つの町の大きな方針にあるんですけども、その割にははっきり言って何もやってない。

もちろんこういうもの（ぬいぐるみなどの恐竜グッズ）もない。もちろん穂別の方はですね恐竜の見つかったところですから、皆さん興味を持っているし、博物館がありますからいいんですけど、こちらのむかわ町の方には恐竜の恐の字もない。というような状況だったのでやっぱりこれは我々がやらなくちゃいけないのじゃないか、というのでこういうものをまず作り始めたんですね。

### （質問）今はメインはぬいぐるみ？

それで実は北海道の自然史博物館で恐竜展をやる予定だったんですよ。去年の夏。それに合わせてこれを作ったんですよ。

むかわ竜、ティラノサウルス、クビナガリュウ、といったむかわ町からレプリカを持って行ってそれを展示し恐竜展をそのグッズとして置く予定だったんですけどね。それが結果的に中止ということになって、それで売り先がなくなったんですよ。

それで代表の方のアイデアでクラウドファンディングやろうよと。この行き先、せっかくデビューしたこの恐竜を誰か買っていただけませんか。ということで、全国から恐竜ファンの方が本当に多くの方からは是非買わせてくれということで、ものすごい反響でした。我々が最初考えていた 3 倍から 4 倍売れましたね。

**(質問) それだけ全国には恐竜に興味を持っている人が多い?**

そうですね。もう間違いなく恐竜に関心をもつ興味を持っている方、恐竜大好きという方がいるんだなあと実感しましたね。

それとやっぱり、むかわ町が震災の被害を受けたということでむかわ町のご存じの方も結構いらして、復興頑張ってくださいということで、ぬいぐるみは買わないけれども寄付しますという方も結構おられて。いろんなメッセージも (いただいて) 頑張ってくださいとかですね。だいたい 300 人くらいの方から支援をいただいて、わずか 2 カ月足らずですけど沖縄から (の支援もあった) ただ北海道関係が半分くらい、残り半分が他の地域、沖縄とかも全部含めてですね。

**企業がまちづくりするメリットは?**

それはやっぱりいろんなアイデアが出て、色んな商品に変えられる。あと、むかわ町の中でも皆さん知らないんだけど優れたものはたくさんあって、それを一つ一つ発掘してサイトにのっけていくという作業を去年一年ずっとやっていました。

**(質問) 今は何種類ぐらい? ラーメンも含めて**

15~16 種類すでに作っていますね。

**地域を発掘するためのコツ**

こだわるって言うことですかね。うちのまちはやはり恐竜化石が過去 2 回ほど海の化石が取れているんですけども、7800 万年前の頃中世代白亜紀後期という時代、それと新世代 100 万年ぐらい前の時代のイルカとかクジラとかそういった化石が取れます。それをまちの地方創生の一つの起爆剤にしようという方針がありますので、それに恐竜化石にこだわるっていうか、そういった展開をすることが一つのキモかなとも思います。

また、これは地域資源の 1 つでほかにも地域資源って様々ありますんで恐竜で一つの道を作り、その後です地場の産品をさらにアピールしていくという流れが作ればと思っています。

**産学官連携の内容**

北海道大学総合博物館は学術的な部分・教育的な部分というものを今後そういう分野で発揮していただきたい、(発揮) していきたく思いますけども、行政は行政で、むかわ町をアピールするという部分で声を大にして恐竜のまちだと北海道は恐竜化石の大陸なんだということをアピールするだろうと。

北海道も合わせてまた道内の化石を産出する市町村も一緒に取り組んでスクラムを組んで取り組むだろうと。

そして民間である商社といったものがその地域あるいは北海道経済の好循環をつくるような、そういった経済に刺激を与えるような取り組みが我々に求められているんだろうというふうに思っていますね。

#### 課題

結局、商品はあるんだけど、それを加工する場がない。加工する場があればですね、色々な所いろんな1次産品だけでなく2次3次と6次化と言われているような形で取り組めるんですけど、それがなかなかこのまちではまだ難しい。

従って今度は販路がマーケティング的に言えばですね、販路の開拓というのは一番難しいわけですね。そのマーケティングの販路を作る部分のコア（中核）になる商品がなかなかない。ということで、その辺が一番難しいところで田所さんおっしゃったように、この恐竜という一つのコンテンツを生かしながら商品売っていく。

例えばこのラーメンもですね、色々な販路で新しい販路で売っていく。ぬいぐるみではできなかった販路がこれで販路ができるかもしれない。（新商品の）カレーが今度できればそのカレーを使った意味で新しい販路ができるかもしれない。これは北海道だけでなく全国展開というそういう形の販路開拓というのは実は一番ですね、商社と名の付くところでは一番大事で、どうやって作るか皆さん苦労されているところですね。

#### 行政との関わり

行政は財政的支援をさせていただいています。走り出したところということで当面の間は支援をさせていただけると思います。それ以外は基本自主自立で、いろいろ創作し企画し新しい商品をそれはもうお任せですよ、という部分ではある意味自由にさせて頂いていますので、それはそれでいいのかなあと思っていますね。

ですから行政との課題と言えば定期的に行政はどういう方向に向いている、どういうことを考えているんだということを定期的に打ち合わせをさせていただきたいなど。我々が出向いてですね、話を聞きに行かなきゃダメだなあと思っています。

#### 今後の展望

会社として存続していく上で資金っていうものがとても大事になるんですよ。どうしても資金難に入りますと新しい商品もできない。在庫もままならない状態になりますのでその資金調達といった部分これが会社としては大きな課題だろうと思っています。

色々な方々に応援していただいでですね、株式会社を目指したい、そして資金調達を得たい。という風に考えています。

一つの夢に近いのかもしれないんですけど、例えば弊社では実物大の恐竜レプリカの販売をしています。大変高額なものなんですけども、それを作るとなると当然工場で作るんですけども、その例えば鉄工場さんで支柱の鉄を加工するとか様々な商店から仕入れるとかも

のをですね、いわゆる一つのものを地元でつくることによって地元の店がそれなりに潤うという流れができるんですよ。

そういうような形で地元で恐竜に関わる企業さんが進出していただくとか、あるいは新規企業あるいは生業を作りたいって個人の方が商売を始めたり、そういった形でこのまち全体が恐竜城下町的なそんなまちができれば理想だなあと考えています。

この辺も小林先生はこうおっしゃるんですよ。北米大陸には2か所ほど恐竜のまちとして成功した街がある。でも日本またはアジアこのエリアには一つもないんです。それを挑戦してはどうですかと。挑戦する街としてはそうそうないですよと、トライできるまちはそうそうないですよと。やってみてはいかがですかというふうに言って頂いたものですから、我々はその気になって頑張ろうかなと考えているところです。

そうなるかどうか本当に相当時間のかかるものだと思いますけどね、そういうふうな街ができれば、またそれはそれで町民の方も誇らしく思うだろうし、そういった街を作ればなというふうに思っています。

#### モンゴル国との連携について

北海道大学総合博物館とむかわ町（しいて言えばむかわ町穂別博物館）それとモンゴル国科学アカデミーの古生物学地質学研究所というところと三者連携をしているんです。相互協力協定というものこれは北海道大学総合博物館小林先生の音頭をとっていただいて、モンゴル国とむかわ町三者で相互連携協定をして学術的文化的そして産業的な部分も含めて総合的に連携していきましょうと。

これも一つの弾みになる取り組みでして、将来はモンゴル国の恐竜レプリカなどのですね販売発掘などにもお手伝いできればと思っています。